

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600647		
法人名	有限会社 グループホーム ゆうゆうてらわき		
事業所名	グループホーム ゆうゆうてらわき		
所在地	長崎県五島市岐宿町松山513番地1		
自己評価作成日	平成 28年 1月 12日	評価結果市町村受理日	平成 28年 3月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=4271600647-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28年 2月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・特に力を入れている点→ 各利用者様の健康管理や事故防止(誤嚥予防・転倒等)異常の早期発見に努めている。 施設は自然に囲まれた静かな場所に立地しており 毎年夏には施設前にてバーベキュー大会を開催する等、ご家族様や地域との繋がりも大切にしている。</p> <p>・アピールしたい点→ 玄関を入ってからの施設内の穏やかでゆったりとした雰囲気やホール、各居室、トイレ等の清潔感があり、家庭的な雰囲気の中で少人数の利用者様と職員が共に笑顔で楽しみながら生活している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域に根ざしたホームとして、地域体育祭・園児の和太鼓披露・バーベキュー等の様々な行事を計画し、入居者に生活を楽しんで頂けるよう工夫を施したホーム運営が実施されている。また、運営推進会議には家族の方の参加が多数あり、入居者の生活状況について報告がなされ、家族との信頼関係の構築につなげるよう努められており、入居者が安心して暮らされていることが窺えた。事故防止(誤薬対策・転倒対策)についての意識も高く、リスクが生じた場合は職員で改善点を検討し、それを運営に取り入れるような体制が整っている。訪問時、職員の方の言葉遣い・挨拶・利用者への対応より「笑顔で優しく」接するという方針を職員一人ひとりが意識して実践されており、今後も継続して実践していくという意思がヒアリングの中で伺う事ができた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、全職員で理念を唱和復唱し一日の活力としている。毎朝 理念を再確認・共有する事で 全職員が「笑顔を忘れないケアの実践」に繋げている。	入居者が不安なく生活できるよう、笑顔で優しくケアできるよう意識して、日々の支援を職員が協力して実践している。また、健康の維持や事故防止の意識も高く、入居者が安心して生活できるケアを実践できるよう、職員は丁寧に業務にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の体育祭、保育園、小学校の催しには積極的に参加し、施設の行事では地域の方をお招きするなど地域住民との交流の機会を多く設けている。時には近隣住民者が気楽に遊びに来て下さり、野菜や手作りのご馳走を戴く事もある。	近隣住民・小学校・保育園の方とは日々のお付き合い・行事・体育祭等で交流があり、地域社会に根ざしたホームとしての役割を果たしている。近隣保育園の園児が和太鼓をホームで披露してくれる事もあり、入居者が楽しんでいた事を職員より伺う事ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設が長年積み重ねた認知症ケアについて、近隣の方から相談を受けたり介護への不安や支援方法等、いつでもアドバイスできる体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、1回/2ヶ月 定期的開催しており当施設の運営状況について報告し、参加者からの意見を伺う等、一体的な話し合いをしている。又 外部評価についても説明を行い、結果報告も実施している。	当ホームの特徴として運営推進会議への家族の参加率の高さが上げられる。ホームとしても家族の方に参加して頂き、入居者の方の生活状況について知って貰いたいという思いが感じられた。運営推進会議で出た意見については、改善点等があれば迅速に対応するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、市町村担当者には必ず出席して戴き、その際 施設の実情やサービスについての取組み状況を積極的に伝えている。又、適切な判断が難しい場合は、直接市町村担当者へ相談しアドバイスを戴いている。	日々の事務的な相談事項についてはもちろん、行政主催の研修会(感染症予防等)には出来る限り参加するようにし、グループホーム運営に関する必要な情報を取り入れるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に、職員間でケアを振り返り「身体拘束・言葉の拘束」について意見を出し合っている。已む無く身体拘束が必要な場合でも、施設全員がその必要性について十分に話し合い「身体拘束をしないケア」の実践に取り組んでいる。	職員は、身体的な拘束防止はもちろん、威圧的な言動・対応で入居者が不快に感じないように、日々のケアに従事している。身体拘束をしないケアを十分に実施できるよう、職員は入居者の性格・生活状況についての情報を共有し、知識・技術の習得に励んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員各自が研修会に参加し、高齢者虐待防止法について勉強し、職員間の日々のミーティングで、日常の業務を振り返り意見を出し合いながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修に参加した事はあるが現在に至るまで、対象となる 又はなりうる利用者様が不在だった為、対応法等理解不十分である。今後も積極的に研修に参加し学習していきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、契約時に事業方針等詳細を十分説明し、不安や疑問点を尋ね その場で適切な回答をする努力をしている。又 改定等の際は、文書及び口頭にて説明し、理解・同意を戴いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族様とは通常のコミュニケーションの中で、不満や要望等を言える関係作りに努めている。又、運営推進会議時に出された意見なども、職員会議等で協議し、サービス向上へ繋げる努力をしている。	運営推進会議には家族の方が多く参加されており、家族との関係性を大事にしているホームだと感じた。また、入居者及び家族の方より意見があった場合は、職員間で情報を共有し、それが可能ならば運営に反映させる体制となっている。	更なる家族意見反映の一環として、職員の異動が生じた際には家族に紹介して頂くよう期待したいです。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度開催されている職員会議には 代表者も必ず参加し、職員からの意見・提案及び要望を聴く機会を設けている。内容によりその場で全員で協議し解決できるものは、速やかに解決し実行している。	運営についてのアイデアや提案を、気軽に言いやすい職場環境づくりの為、代表者及び管理者は意見を聴く機会を設けている。また、提出された意見については改善すべき点があれば、運営に取り入れる体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場に来る事は多々あるが、全職員の仕事内容状況の把握が出来ているかは解らない。全職員が向上心をもって働く事ができる様、研修参加の為の日程調整については理解を示している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握しているのかは解らないが、1回/月開催の社内研修開催を認めている。社外研修についても 出来るだけ多く受講できる様、情報収集と勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修時他事業所の職員と交流の機会をもち、情報交換をしている。ケアマネジャーはグループホーム連絡協議会主催の「検討会」に毎回参加し、他の事業所の情報や事例を収集しサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴を知り、その方自身に興味を持ち観察して「よく知る事」からはじめます。不安や悲しみを受け止め、安心・信頼していただくと共に 職員が頻回に接し笑顔を引き出す言葉掛けをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の苦労や求めている事、願っている事を、十分理解した上で対応方法を検討している。利用者様とふれあう事を大切にしながらご家族に近況報告をする事で信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望者には 事前に 管理者、ケアマネージャーが面接し、利用者様本人やご家族様の「その時の」状況や希望に応じ、他事業所・サービス利用等を紹介、提案させていただく場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活するもの同士、苦しみやこだわり、不安等を共感し、人生の先輩として接し 沢山の事を教えていただく事に感謝の気持ちで支援させて戴いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者様の日常や気づき、異変等をご家族様へ密に報告し情報を共有している。利用者様に安心して生活して戴けるよう、ご家族様と職員は「共に考える」良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に住まれていた地域へのドライブで友人とお話する機会を作ったり、昔からの知人・友人が面会に来られたりと交流を継続して戴いている。	電話や手紙の作成支援は、随時実施しており、馴染みの方と関係が途切れる事がないよう支援している。ホームには入居者の友人の方や、近所に住む方より野菜の差し入れ等もあり、また、知人訪問時の職員の方の対応より気兼ねなく立ち寄りやすい雰囲気のあるホームであると感じた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様全員が仲良く楽しく生活できる様、レクリエーションなど交流の機会を作り、良好な関係作りに努めている。又 万が一利用者様間のトラブルが発生した場合 職員はそのまま放置せず、双方の話を傾聴し解決に向け努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族様からの相談に応じたり、現在の状況をお伺いし、励ましの言葉掛けをするなどこれまでの関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、各利用者様の個性を理解し その方の思いや暮らし方の希望を知ろうと努力している。個々の希望を全面的に叶える事は困難であるが、可能な限り本人の希望を尊重し職員全員で検討し実現に向けて努力している。	特に表現が困難な入居者に対しては「伝えたい事」「感じている事」を引き出せるよう、職員が声かけや丁寧な対応を実施している。また、声かけの際の音量についても配慮がなされており、急に大きい音を出し入居者が不快に感じる事がないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の基本情報や日々の暮らしの中で、個々の生活歴や性格、環境等を知る事で、その方への理解を深めている。関わりを多く持ち 情報を収集していく事を大切にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常に利用者様の表情・行動・身体状況など観察し些細な変化を見逃さないよう見守っている。日々の暮らしの中で、出来る事の手伝いをお願いし、その方の有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、利用者様 ご家族様の意見や要望を把握し、支援に反映させ、職員間では意見交換 カンファレンスを行い、利用者様本位の介護計画を作成している。	本人の日々の生活状況や体調面も観察しつつ、職員及び家族が情報交換を実施してケアプランを作成している。実際に介護計画に基づいた支援を実施した事により、介護度を下げる事も出来た利用者の方もおり、その重要性を職員が認識をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルを用意し、日々のその方の様子、言葉、気づき、エピソード等を詳細に記録する。職員全員が確認し、情報共有を徹底し、又 介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族様のその時の状況に応じて、通院や送迎などを行い、個々に満足していただけるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌を閲覧したり、運営推進会議では地域の市職員や民生委員が参加される事により、周辺情報や支援に関する情報交換が出来ている。利用者様が安心して生活できる環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、かかりつけ担当医を伺い、利用者様・ご家族様の希望を大切にしながら納得が得られたかかりつけ医への受診を支援している。	本人の希望に応じたかかりつけ医の受診支援を実施している。また、近隣診療所の医師とも情報交換を通じて協力関係が築けており、緊急時の迅速な対応がとれるような体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の表情や行動を観察し、変化にいち早く気づき、全職員で情報を共有している。状況により看護師、かかりつけ医に相談 報告し早期発見、早期処置に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、安心して治療できる様 入院機関へ情報提供している。契約時に「個人情報に関する事」について説明、納得の上書面にて同意を載っている事で病院関係者との情報交換や相談をする事が出来る		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時には、「重度化した場合の対応」や「看取りに関する指針」を書面を見ながら説明し、医療機関ではない当施設ができる事を十分に説明する事で、当施設の方針をご家族様と共有している。	重度化した際に、ホームが出来る事を利用者・家族に充分説明し、入居者にとって最善の環境で過ごして頂けるように支援を実施している。また、緊急時マニュアルの作成・社内研修・外部研修等を利用し、終末期支援についての更なる知識・技術の習得に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は、利用者様の急変時や事故発生時に備えて社内外の研修に参加したり、社内訓練を定期的実施し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	2回/年 事業所全体で消防総合訓練を実施し、災害時の避難方法を身に付けている。火災発生時は、消防署自動通報装置にて、自動的に9件の近隣地域住民者へ緊急通報されるようになっている。又、職員は毎晩「日常的な防災チェック」を実施し、火災を未然に防ぐ為の努力をしている。	ヒアリングした職員の方より、避難誘導・消火器操作方法・避難経路の把握等について確認し、避難訓練を通じて基本的な防火知識を職員の方が身につけていると感じ、ホーム職員が協力して火災予防に努めていることが窺えた。	火災予防等の知識・技術は避難訓練を通じて取得されているが、今後一歩進んで地域特性に応じた防災(地震・水害・雪害等)対応計画の作成を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日常の生活の中で、利用者様一人ひとりの人格を尊重し、「介護する側」と「介護される側」という関係よりも、自分よりも年長者であり、人生の先輩である事を忘れず誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応をするように心がけている。	年長者に対する基本的なマナーは当然の事であり、言葉使いや対応が入居者にストレスを与える事がないか常に意識して、職員は日々のケアにあたっている。また、接遇マナー研修等にも職員が参加し、より一人ひとりの人格を尊重した対応ができるような知識・技術の習得に励んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望が理解できる様、出来るだけ お一人おひとりと会話時間を多く持ち、利用者様の言葉を傾聴し自然と楽な気持ちで 自分の気持ちを表現できる様な対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活パターンはある程度決められているが、各利用者様のペースで自由に過ごして戴いている。予定外であっても 可能な限り 希望に添える様努力している。(散歩やドライブ等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り 利用者様に洋服を選んで戴き好みの洋服を着用して戴いている。各居室には鏡が設置されており、好みの整髪ができるようになっていた。1回/1~2ヶ月 近隣の美容室へ訪問美容を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の関わりの中で「好きな物」「食べたい物」を伺い献立作成の参考にさせて戴いている。各利用者様に応じた、食事前のお手伝いをお願いする事もある。食前は、調理担当者が献立と、使用している具材の説明をしている。	栄養面に考慮した献立作りに努めており、また入居者の咀嚼力にも応じ、適切な食事量・形態・とろみ剤を使用する等の工夫を施している。入居者の方に日々の具材を説明しており、少しでも食事を楽しんで頂けるよう協力して支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の嚥下状態に応じ、適切な食事量・形態・とろみ剤の使用等の工夫をしている。可能な限りそのままの形に近い料理を減塩で美味しく召し上がって戴けるような味付けを心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 各利用者様の状態にあった口腔ケアを実施しており(必要に応じ歯間ブラシや口腔スポンジを使用)口腔内の清潔と誤嚥予防に努めている。又 口腔内の異常にも早期発見・早期気づきを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄前の、利用者様の表情や落ち着きの無い行動を見逃さないよう注意深く観察している。個々の「排泄チェック表」を作成し、全職員で排泄パターンの情報共有を行っている。排泄後は柔らかい布オムツを使用し陰部の清潔保持に努めている。	排泄記録を基に、個人個人に応じた排泄の自立支援を実施している。また排泄の際には、本人が不快に感じないように工夫を施したケアを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時の牛乳寒天提供、レクリエーション時の体操も実施し便秘予防に努めている。必要時は下剤の調整も行っている。季節を問わず水分補給は徹底し「水分補給の大切さ」について、職員全員が理解しケアに繋がっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の好みのシャンプー等の使用や、入浴剤を入れる事で、ゆっくり 香りも楽しんで戴いている。担当職員は大切なコミュニケーションの場としての言葉掛けをしている。必要時はいつでも入浴、シャワーが出来る状態を整えている。	入浴支援はひとつのコミュニケーションの場という事を意識して、職員はその支援に取り組んでいる。見学させて頂いた浴室及び更衣室は整理整頓がなされており、入居者がストレスなく入浴を楽しめる環境だと感じた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動する事により 夜間安眠できるよう支援している。個々の生活リズムに合わせて、朝・昼食後に短時間の仮眠をとっていただく事もある。眠剤服用される方には、睡眠状態を把握し、日中の生活(活動)を妨げていないかを確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の「服薬管理ファイル」を作成する事で服用されている薬名等 理解している。服薬時は職員数名が「別々の目で再確認し」服薬事故防止の為 細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に応じた「自立」を基本としている。配膳準備等お願いし、必ず御礼(感謝)の言葉をお伝えするようにしている。自分の役割があるという事で生き甲斐、楽しみ、気分転換になる様働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各利用者様のその日の希望に添った外出は困難であるが、天気や体調を考慮し、何名かつづでも一緒にドライブへお誘いする事はある。又、利用者様が「家族と外出したい・・・」と希望されればご家族様へ相談し協力して戴いている。	入居者の体調面を考慮しつつ、その意向に沿った外出支援をするように努めている。岐宿の魚津ヶ崎公園に向いてコスモス見学に出かけたり、地域体育祭参加する等、外部環境に触れ気分転換が出来るよう配慮がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者様自身がお金を持つ事は大切だと理解しているが、ホームでの金銭紛失防止の為利用者様の金銭保持はご遠慮いただいている。納得が得られない場合はご家族様に十分説明し条件について同意の上で許可している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や友人にいつでも電話しやすいような雰囲気や職員との関係作りに心掛けています。手紙を出したいと希望される場合は、利用者様自身に書いて戴いたり、職員が代筆する等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは、設置されたソファーにどなたでも自由に座る事が出来、テレビ鑑賞や新聞を読んだりとゆっくり過ごされている。屋内は常に温度調整され、壁面の飾り付けにも家庭的な雰囲気を味わう事ができるような工夫をしている。	共用空間には食事をする机、畳やソファでくつろげるスペースが設置されており、入居者が日々の生活状況に応じた使用ができる環境となっている。また、机・備品等の配置も、歩行困難な入居者の移動に支障がないよう配置されていると感じた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースであるホールの一角には、テレビ・ソファ等設置され利用者様どなたでも自由に利用できる。玄関前にはベンチがあり、気の合う者同士が日光浴をしながら会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に居室を案内し、持ち込み物品について、「この6畳の部屋に収まる量で、使い慣れたお好きな物をご準備下さい。」とお願いし、家具の配置や飾りつけも安全で心地よく過ごせるよう工夫している。	見学させて頂いた居室は清掃が行き届いており、空気清浄器も設置されていた。また、ベッドの高さや家具の配置も身体状況に応じ適切であると感じた。持込み品や家具の配置についても利用者の要望に沿えるよう、居室空間造りの支援がなされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の身体状況に応じ、出来る事を安全にして戴く為、ベッドの交換、高さや位置の調整、ポータブルトイレの向きを検討したりしている。状態の変化、問題が生じた場合は、職員間で随時話し合い検討していく。		